
一般講演

東京電力福島第一原子力発電所事故関連 モニタリングデータ

座長:青山 道夫(筑波大・生命環境)

2021年7月7日(水) 16:00 ～ 16:45 第4会場

16:15 ～ 16:30

[19013-15-02]福島原発事故後10年間の空間線量率の測定と除染活動の推進、そして農業復興の状況

○奥村 丈夫¹、田中 節夫²、高橋 莊平²、坂本 哲夫³、森田 真人³、川上 勇⁵、奥村 健郎⁴ (1. 日本中性子光学、2. 南相馬除染研究所、3. 工学院大学、4. 南相馬農地再生協議会、5. 阿藤工務店)

福島県南相馬市は東日本大震災による地震と津波、そして原発事故による放射能汚染の三重苦に襲われ、この3月で10年を経過するが、本格的な復興の途上にある。

南相馬市太田地区では2011年7月から地域住民による空間線量率の測定と除染活動を実施した。

一方、南相馬除染研究所は2013年6月から相双地方の旧警戒区域11カ所で空間線量率の測定を継続している。本発表では、原発事故後10年間の空間線量率の測定と除染活動の推進、そして農業復興の現状を報告する。